

2008年6月29日

- [ルート] 百沢スキー場⇄岩木山
 [参加者名] CL M.KIKUCHI 他 12名
 [コースタイム] フェリー埠頭 6:30→百沢スキー場駐車場 7:40→姥石 8:55→焼止ヒュッテ 9:55
 →鳳鳴ヒュッテ 11:50→山頂 12:15、下山 13:10→鳳鳴ヒュッテ 13:30→
 焼止ヒュッテ 14:50→姥石 15:40スキー場駐車場 16:20→フェリー駐車場 17:50

[登山口までのアプローチ]

国道7号線を高増温泉を左手に見、板柳へ。岩木川を渡り、小友、岩木山へと向かう。先導車の道案内もよろしく、快適に進み、百沢スキー場駐車場に着く。

[山行記録]

7時50分に登山口に入り、途中少しの休憩をとりながら姥石につく。「女人禁止時代、女性はここより一歩も登山することができなかつた」と書かれていた。今は女性が多く、自由に登れることに感謝する。焼止ヒュッテを経て大沢に入るが、雪融け後の沢は大小の石がくずれ落ち、立木が流されて痛々しい。深緑がます頃は何回もの流水できれいな沢になるのだろう。自然は生きていますね。途中、ミチノクコザクラが群生し、花また花！名前も分からないので、初めは気にとめないで歩いていたが、後ろの方から次々名前が聞こえてくるのでメモをとることにした。最初からその気になれなかつたのが残念だ。沢の危険な所はMFさんがロープを渡してくれ、注意しながら、1人ずつ時間をとり登る。登りつめると、種蒔苗代とよばれる小さな沼があり、「昔、神様が稲の種をまいて苗代として使ったという言い伝えにより、この名がある」と書かれていた。信仰の山として津軽平野を見守ってくれているのだろう。

お山参詣は、国の無形重要文化財として、親しまれている祭りで、朔日山は大勢の人でにぎやかだそうです。



鳳鳴ヒュッテで岩木スカイラインからのコースと合流するのでリフトで登り、下山する人とあいさつをしながら急登を経て山頂についた。ゆっくりの昼食では、少しは曇っているものの白神山地、七里長浜、津軽平野を一望しながら下山につく。下山の雪渓では、女性は軽アイゼンをつけ安全に気を使う。厳しい登山ではあったが、注意しあいながら、ゆっくり花を観察できたことに感謝します。

報告 M.TSUJIMURA

2007年12月9日

- [ルート] ビジターセンター→久渡寺山→岩落山→沢の道→ビジターセンター
 [参加者名] 責任者:M.KIMURA CL T.TSUSHIMA 他13名
 [コースタイム] ビジターセンター9:14→カモシカの道分岐 9:35→鳥居(山頂まで1.5K 地点)9:45
 ～休憩5分→久渡寺山山頂 10:32～10:40→岩落山 11:12～11:20→
 ビジターセンター12:20

[山行記録]

7:30 青森フェリー埠頭集合、久渡寺駐車場に着いた時には雪が舞っていた。M.Kさん・Y.Iさん・Tさんと合流、身支度してビジターセンターへ。センターの方から「積雪が少なくワカンは不要、踏み跡がしっかりある」と情報を得て、T.Aさんを先頭に、CL T.Tさんを最後尾にセンターを出発。まもなく遊具がある遊びの森に着く。カモシカの道との分岐からは左へ進み5分程で広い作業道に出る。雪をのせた石仏が静かに見守ってくれていた。もやで霞んで見える辺りの風景は幻想的。さらに5分程進むと赤い鳥居があり、「久渡寺山山頂まで 1.5k」の標柱がある。ここまでは緩い登り坂だがこの先はやや急になる。落葉の上に積もった雪はまだ少ないので足元がすべり要注意。小雪の舞っていた天候もわずかに青空が見えるようになり、新雪をまとった木々が太陽に照らされて輝く様は眩しく美しかった。ジグザグ道の急坂を30分程登ると祠の鎮座する山頂に到着。青空は広がり弘前市街が一望できた。休憩後岩落山を目指して下山。道は急坂、落葉の上に積もった雪が足を置いた途端に滑ってしまうため足運びに神経を使う。前方で・後方で・・・自分も滑って転んではその度に笑い声が聞こえていた。山頂出発

から30分程で岩落山(573m)到着。計画ではここで昼食の予定だったが、時間も早いし、ビジターセンターでは暖かい豚汁が食べられるということもあり、センターで昼食とすることで意見が一致。丸太階段の急坂を注意しながら一步一步下る。沢の道へ入ってからは登り。沢を左右に渡りながら進むので水量の多い時は大変なのかな・・・と思う。沢から離れて登りきり、少し下るとミス観音像が建っていて、久渡寺・ビジターセンターへと進む。センターでは食事中小学生が席を譲ってくれて我々の昼食タイム、豚汁がおいしかった。今冬初めての雪遊びは童心を思い起こさせてくれて楽しかった。

報告 H.HARADA

